

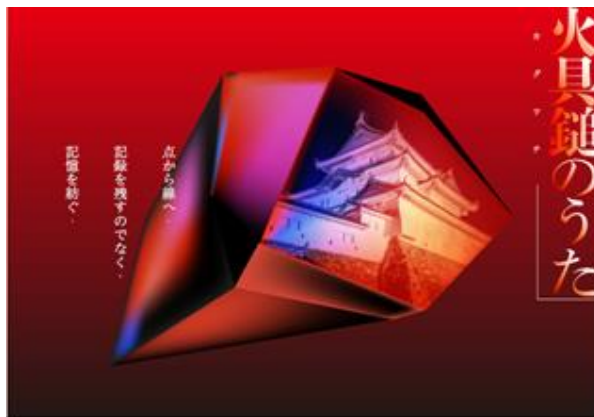


令和3年1月21日

担当課	文化振興課
担当者	福田、前端
電話	(073) 435-1194
内線	3090

ワカヤマ サウンドスケープ
WAKAYAMA SOUNDSCAPE

カグツチ
和歌山を題材にした創作歌劇「火具鎚のうた」を上演します！
～コロナ禍においても文化芸術の振興をめざして～



※ホームページのメイン画像

1 事業概要

和歌山市は、コロナ禍においても若者や子どもを中心とする文化芸術活動の活性化に向け、文化庁の戦略的芸術文化創造推進事業を活用し、「WAKAYAMA SOUNDSCAPE」という事業を実施します。

歌劇の主な出演者は、地元和歌山の学生や若手俳優、ダンススタジオからオーディションの参加者を募り、第一線で活躍されている脚本家・振付師によるワークショップ及び審査を経て決定しました。

なお、実施にあたって文化庁の事業を活用するため、和歌山市と和歌山市観光協会等で実行委員会を構成しています。

【戦略的芸術文化創造推進事業とは】

国が芸術文化の振興における課題を示し、それを解決するための取組を公募、実施することにより、国内の芸術水準の向上と鑑賞機会の充実を図ることを目的とするもの。令和2年度については、新型コロナウイルス感染拡大により、文化芸術行事が各地で中止・延期等を余儀なくされている状況を踏まえ、各地域での活動の機会を創出し、地域の活気を取り戻すことを目的とした事業が含まれている。

2 上演内容等

概要

未来の和歌山市に住まう高校生を主人公とした歌劇を新たに創作し、地元キャストによる無観客上演を行い、その様子をユーチューブ等で配信します。キャストには和歌山児童合唱団や和歌山雅楽会、和歌山県出身の若手俳優を中心に起用しています。

また、本作の主人公のキャラクターデザインを和歌山市出身で不朽の名作『ゴルゴ13』の作者として知られる、さいとう・たかを氏が担当。舞台はレーザーやLEDなどの最先端機材を駆使し上演します。

上演タイトル

「火具鎚^{カグツチ}のうた」 ～点から線へ 記録を残すのではなく 記憶を紡ぐ～

あらすじ

西暦 2100 年、世紀末を迎えた和歌山市。現代と大きく変わらないように見える世界だが、地球の温暖化は止まらず、百年前にも流行した終末思想がインターネットをにぎわしている。そんな未来に暮らす高校生のミーコとカイは、ある日を境に全く同じ夢を見始める。赤く燃え上がる空に「火具鎚（カグツチ）」という言葉（うた）。カイの弟で秀才のソラは、ふたりの話を信じようとしめない。一方で、その現象は日に日に世界へと広がっていく・・・最初は一蹴していた科学者も、悪質な噂だと批判したメディアも、今ではその究明に真剣だ。

徐々に曖昧になっていく“現実”と“夢”の境界が消え去る時、主人公の3人は、“記録”ではない“記憶”を見ることになる。

それは、誰のための、誰の予言なのか？

再び、「火具鎚のうた」が流れ始める。

※1400 万年前に紀伊半島で世界最大規模の噴火があったとの説に着想を得たストーリー。

主人公（キャラクター）



ミーコ Miko

カイ、ソラとは幼馴染。とても怖がりの女の子。普段は天真爛漫だが、それは恐怖心の裏返し。人一倍恐怖心を感じやすいキャラクター。

このキャラクターたちを
地元和歌山の若手俳優たちが
舞台上で演じます！

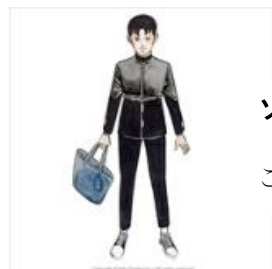
カイ Kai

ソラの兄でミーコとは幼馴染。勉強はあまり得意ではないが、三人の中では記憶力を持っていて、誰も覚えていないようなことを覚えている。三人の中では一番勇気のあるキャラクター。



ソラ Sora

カイの弟でミーコとは幼馴染。勉強がとても得意で、論理的。非科学的なことは絶対に信じない。冷静沈着だがどこか可愛げのあるキャラクター。



【キャラクターデザイン/さいとう・たかを氏コメント全文】

私は 1936 年、和歌山県で産声を上げました。生誕の地でもある和歌山には想い入れ深く、今回のオファーも快く引き受けさせて頂きました。

和歌山の古くから伝わる歴史的逸話、更には雄大かつ神秘的な自然を多くの方々、特に若い世代にも知って頂ける良い機会なのかとも思いながら、キャラクターデザインをしました。

「火具鎚のうた」という舞台作品にて、和歌山の魅力的な「歴史」「自然」が末永く伝承されていく事を心から願っております。

【さいとう・たかを氏プロフィール】

大人の鑑賞に堪えうる「劇画」を定着させ、分業制を取り入れた「さいとう・プロダクション」を設立。代表作は『ゴルゴ13』。1976年、第21回小学館漫画賞受賞。2003年に紫綬褒章、2010年に旭日小綬章受章。2018年、和歌山県から文化表彰・文化賞を授与されている。

音楽

テーマ曲「カグツチ」

作曲：松下 耕

作詞：みなづき みのり

会場

和歌山城 西の丸広場

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため無観客上演とし、全国から視聴できるよう映像を配信します。

配信日時

YouTube等で3月16日（火）正午から公開予定。

公式サイト

URL：<https://kagutsuchinouta.jp/>

3 スタッフ

脚本・演出：春陽 漁介（劇団^{ランドリー}5454）

振付：野口 量（Blank）・森井 淳

スペースデザイン：YAMACHANG

写真：Iori Takano

4 オーディション参加者の声

歌劇の出演者オーディションに参加された方からのご感想を一部ご紹介します。

- ・「発声方法や間の取り方など、細かいところまで指導していただき大変勉強になりました。」
- ・「合否に関係なく、貴重な経験をさせていただきました。」
- ・「プロのダンサーの動きを間近で見ることができ、身体表現の幅が広がりました。」